

《そ の 他》

看護学生のコミュニケーション教育の動向：総説・レビュー論文の検討

阿 部 智 美¹⁾

要旨：本研究の目的は、総説やレビュー論文の検討から看護学生のコミュニケーション教育の動向を明らかにすることである。医中誌 Web を用いて、看護の分類で原著論文を対象として「コミュニケーション」「学生」「文献」をキーワードに文献検索を行った。対象文献は、看護学生を対象としたコミュニケーションに関する総説やレビュー論文で9件とした。文献検討の結果、対象文献にまとめられている内容から、【コミュニケーション教育・研究の特徴】【学生のコミュニケーションの現状や課題】【コミュニケーション教育の内容や方法】が明らかになった。これらの結果から、基本的・専門的なコミュニケーション能力の育成や具体的な場面の活用による教育方法等の看護学生に必要なコミュニケーション教育のあり方について示唆が得られた。

キーワード：コミュニケーション，看護学生，文献検討

I. はじめに

看護においてコミュニケーションは、看護実践に必要不可欠なものである。看護基礎教育では、看護学生のコミュニケーション能力の向上が求められている。2007年の看護基礎教育の充実に関する検討会報告書¹⁾を受けて2008年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正され²⁾、その後、2019年に看護基礎教育検討会報告書³⁾を受けて2020年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正された⁴⁾。いずれの報告書^{1), 3)}においても、看護学生のコミュニケーション能力の強化が示されていた。このような背景には、2007年の報告書¹⁾では、看護学生の基本的な生活能力や常識、学力が変化してきていると同時に、コミュニケーション能力が不足している傾向があること、2019年の報告書³⁾では、これまでに比べ、人間関係の希薄化や生活体験の不足が進んでいること、看護職員が対応する対象の多様性や複雑性が増していること等が述べられている。

看護基礎教育では、看護学生のコミュニケーション

能力の向上を目指して、これまで数多くのコミュニケーションに関する研究や教育活動が報告されてきた。これらの報告は、時に総説やレビュー論文としてまとめられている。このような総説やレビュー論文の結果や考察・教育への示唆から動向を明らかにし、今後の看護学生に必要なコミュニケーション教育のあり方について検討することは有用ではないかと考えた。

そこで、本研究の目的は、総説やレビュー論文の検討から看護学生のコミュニケーション教育の動向を明らかにすることとした。

II. 研究方法

1. 文献検索・選定方法

医中誌 Web を用いて、看護の分類で原著論文を対象として「コミュニケーション」「学生」「文献」をキーワードに発行年を設定せず、文献検索を行った。その結果、150件が検出された(2024年5月検索)。そのうち、対象文献は看護学生を対象としたコミュニケーションに関する総説やレビュー論文で9件とした⁵⁾⁻¹³⁾。対象

1) 弘前学院大学看護学部

連絡先：阿部智美 〒036-8231 青森県弘前市稔町20-7

TEL：0172-31-7100, FAX：0172-31-7101, E-mail：tomomi.abekg@hirogaku.ac.jp

受理：2025年1月24日

表 1 対象文献の概要

著者・発行年	研究目的	研究方法	結果と考察・教育への示唆
吉新 ⁵⁾ 2009	文献により、看護学生のコミュニケーション上の問題とその問題に対する教育方法の効果と課題を明らかにする。	2005年～2008年9月までの過去3年9ヶ月の看護学生のコミュニケーションに関する、国内の文献を対象にする。(対象となる文献数が多く、最新の情報を中心に文献の抽出を行いたいと考えたため、3年9ヶ月とする。) Web 版医学中央雑誌より、「看護学生」「コミュニケーション」の2つをキーワードとし文献を検索する。	①看護学生のコミュニケーションの問題、②看護教育方法、③教育方法の効果、④教育方法の課題が示されている、研究対象の文献39件を抽出した。(結果から抜粋) 1 看護学生のコミュニケーションの問題は、【一般的なコミュニケーション能力(技術)の不足】、【学習方法が身についていない】、【患者と実際にコミュニケーションをとるのは初めて】の3つのカテゴリーに分類された。2 教育方法は、自己洞察やイメージ化を図るものと、学習意欲の向上をねらうものとの2つに分けられ、それぞれ教育方法の目的に応じた効果が得られていた。3 各教育方法の課題として、教育方法の利点や欠点を理解し、適切な教育方法を選択すること、教員の関わりにより教育効果が変化することが挙げられた。(結論から抜粋)
平澤 ⁶⁾ 2012	本稿では、この点についての先行研究を精査し、看護基礎教育における対面場面のコミュニケーション能力を涵養するための教育のあり方について提言することを目的とするものである。	先行研究を概観し検討するにあたり、CiNiiを用いて過去5年間における国内の先行研究を検索し、キーワードには「看護」「教育」「コミュニケーション」を用いた。これらの検索データのうち、本稿の検討・分析の対象は(1)「コミュニケーション技術に関する看護学生の傾向」に関する調査で、(2)学会誌、大学・短期大学紀要、看護系雑誌に掲載された論文とした。	キーワードに過去5年間の論文を検索した(2010年10月現在)結果、151件がヒットした。(結果から抜粋) 今回、看護教育における看護学生のコミュニケーションの傾向に関する10文献を、学生の意識と技術的側面とで分類し、分析した。電子メディアの普及に伴う現在の看護学生のコミュニケーションに関する課題が確認された。そのなかでも特に、非言語的コミュニケーションへの着目が増え、自己効力感の重要性が浮き彫りになった。と同時に、ただ単にコミュニケーションの技術だけでなく、その意味するところを学生に伝えるための教授方法の工夫の重要性がわかった。特に、コミュニケーション場面での学生の体験を、教員がどのように意味づけし学生に伝えるか、また困難が予想されるコミュニケーション場面での教員のロールモデルの重要性なども確認できた。(まとめから抜粋)
市川ら ⁷⁾ 2014	本研究では、近年、看護学生のコミュニケーション能力が低下していると指摘されていることから、共同研究者の専門領域である基礎看護学、成人看護学、精神看護学、在宅看護学、看護の統合と実践の各領域の臨地実習において、国内の看護系雑誌から臨地実習における看護学生のコミュニケーション能力の現状と課題を明らかにする。	医中誌 web より「コミュニケーション」「看護学生」「看護」「臨地実習」のキーワードで検索し、2004年から2013年までの118件の文献のうち、共同研究者の専門領域に関する現状と課題が明らかになっている12件の文献を臨地実習領域別に分類し文献検討を行い、臨地実習の学習進度により変化する看護学生のコミュニケーションにおける現状と課題について明らかにした。	臨地実習における看護学生のコミュニケーション能力の現状と課題は、(1)マイナスなコミュニケーションの傾向(2)他者理解の重要性(3)コミュニケーション技術の重要性(4)社会的スキルの重要性(5)自己効力感を高めることの重要性(6)臨地実習におけるコミュニケーション経験の重要性である。(要旨から抜粋) 文献検討から得ることができた看護学生のコミュニケーション能力の現状と課題に対して「患者理解」や「社会的スキルの獲得」「患者とのコミュニケーションにおける自己効力感」などを高めるための教育や研究を行うことが必要であると考える。また、臨地実習に関わる教員や臨地実習施設の実習指導者のみならず、看護学生自身も、臨地実習領域、臨地実習時期別の特徴を十分に把握しながら臨地実習に挑むことで、臨地実習に主体的に取り組むことができ、臨地実習における看護学生のコミュニケーション能力の向上を図る一助になると考える。(今後の研究の課題から抜粋)
前原 ⁸⁾ 2016	本研究では看護学生のコミュニケーション・スキルの向上の為に必要な教育に関する研究の動向を概観し、段階的、継続的な支援を検討する為の基礎資料とすることを目的とする。	医中誌で「看護学生」と「コミュニケーション」をキーワードとした日本国内の公刊文献総数と原著論文数を検索し(2015年11月31日検索)、原著論文数の年次推移を確認した。次に過去5年間(2011～2015年)に刊行された「看護学生」と「コミュニケーション」をキーワードとした原著論文の中から学士課程での看護教育のコミュニケーション・スキルの向上に関する文献を抽出したうえで、大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会において「学士課程版看護実践能力と到達目標」に明示された「援助的関係を形成する能力」の項目を基に文献を分類した。更に文献を臨地実習、演習、尺度開発、文献検討に分類し、主な論文を挙げ研究目的、研究方法、結果からコミュニケーション・スキルの向上に関する研究の動向について検討した。以上、文献1編につき複数の項目を含む場合もある為、各文献には該当する項目を全て計上した。	医中誌で「看護学生」と「コミュニケーション」をキーワードとした日本国内の公刊文献数を検索した結果、文献総数は2,553編(1976～2015年)、原著論文は1,313編(1976～2015年)であった。(中略)コミュニケーション・スキルの向上の教育に関する文献109編を大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会において明示された「援助的関係を形成する能力」の項目を基に文献の内容を確認した結果、コミュニケーションの原則と技術99編、対人関係・相互作用45編、援助的関係の過程34編、自己分析・自己理解29編、治療的コミュニケーション16編、グループダイナミクス11編、ケアリングの考え方4編、リーダーシップ2編であった。コミュニケーション・スキルの向上の教育に関する文献109編は、臨地実習55編、演習31編、尺度開発3編、文献検討6編であり、(中略)臨地実習55編のうち基礎看護学実習は23編、成人看護学実習は11編、老年看護学実習は6編、小児看護学実習は2編、精神看護学実習は10編、在宅看護学実習は1編、全領域実習は3編であった。(中略)演習31編のうち、プロセスレコード6編、ロールプレイング7編、シミュレーション学習2編、模擬患者演習6編、疑似体験3編、SST演習4編、看護過程の展開1編であった。(研究結果から抜粋) 看護学生のコミュニケーション・スキルの向上に関する教育内容が、看護専門職としての発展につながるものである為には、看護学生および就労後の看護師を対象に段階的、継続的にコミュニケーション・スキルを評価し、更にはコミュニケーション・スキルを向上する為の教育的プログラムの開発などが必要であると考える。(結語から抜粋)

文献には、看護学生と看護師を対象とした文献1件も含めた⁹⁾。

2. 分析方法

対象文献の概要として著者・発行年、研究目的、研究方法、結果と考察・教育への示唆を抽出した。さらに、対象文献にまとめられている内容を抽出し、類似した内容ごとにまとめ、分類した。以下、分類を【 】、小分類を< >で記す。

3. 倫理的配慮

文献の内容に忠実であることに努め、使用した文献について出典を明記した。

Ⅲ. 結 果

対象文献の概要を表1に示した。また、対象文献にまとめられている内容からの分類を表2に示した。

小山ら ⁹⁾ 2017	本研究は、日本における看護学生と看護師を対象としたコミュニケーション・スキルに関する文献をレビューすることにより、日本の看護教育における「コミュニケーション・スキル」とは何か明らかにする。これをもとに、今後の看護におけるコミュニケーション・スキル教育の在り方について検討する。	キーワードとして「コミュニケーション・スキル 看護師/TH」、「コミュニケーション・スキル 看護学生/TH」の2種類の他にも、同様の意味で使用されている「コミュニケーションスキル」も必要ではないかと考え、「コミュニケーションスキル 看護学生/TH」と「コミュニケーションスキル 看護師/TH」も加え、4種類のキーワードで検索を行った。これらのキーワードでの検索で、文献の重なりはなかった。また、現在までのすべての論文を確認するために、発行年を制限せずに検索を行った。検索エンジンとして、医学中央雑誌 Web 版と CiNii を使用し、絞り込み条件の言語を日本語として検索したところ、1995年以前には、0件であったが、1995年から2016年まで166件だった。	原著論文の年次推移とみると、2000年以前に、原著論文は0件で、2000年以後、原著論文が90件発表されていた。その原著論文の中で研究目的にコミュニケーション・スキルをあげていたものは、33件であった。(結果から抜粋) 看護におけるコミュニケーション・スキルとは、個人的なスキルというよりも場面に応じた社会的スキル(およびストラテジー)の意味で用いられてきたことが明らかになった。今後、看護師や看護学生のコミュニケーション・スキル教育の方向性として、自らのコミュニケーション・スキルを自覚し、個人の特性に応じたトレーニング方法を選ぶようにすることの重要性が示唆された。(おわりにから抜粋)
鷹野 ¹⁰⁾ 2018	本研究では、看護学生のコミュニケーション能力向上を図る実習指導の教育モデル構築の一助とするため、看護学実習について学生のコミュニケーションに焦点をあてた既存の文献を検討し、実習における学生のコミュニケーション能力育成に関する看護教育の現状および課題を明らかにする。	2002年～2016年までの期間に国内で発表された看護学教育に関する文献を対象として、医学中央雑誌 Web 版 Ver.5、CiNii、メディカルオンラインにおいて、キーワードに「看護学生」「臨床・臨地実習」「コミュニケーション」を用いて検索した。(中略) 実習という観点から看護学生のコミュニケーションを主題として取り扱った原著論文、実践報告の文献56件を選定し、検討した。	1.看護学生の実習前後のコミュニケーション力の変化をみる文献」2.実習におけるコミュニケーション能力、技術に影響を及ぼす因子に注目した文献」「3.学生の特性に注目した文献」「4.対象者の特徴によるコミュニケーションの困難さを扱う文献」に分類された。近年、臨床において発達障害の症状と酷似する看護師側の要因によるコミュニケーション能力の問題が指摘されているが、この問題を取り扱う文献は見当たらなかった。ほぼ全ての大学に発達障害スペクトラムの学生が在籍しているという指摘など勘案すると発達障害的な問題をもつ学生のコミュニケーション能力向上をめざす看護教育的な確立は急務の課題である。(summary から抜粋)
中嶋ら ¹¹⁾ 2020	精神看護領域における看護学生のコミュニケーションスキル向上のための教育方法に関する看護学教育への示唆と課題を明らかにすることを目的とする。	2013年1月～2018年8月までの国内外にて発表された速報・短報・会議録・総説および解説を除く原著論文およびの文献をPubMed、医学中央雑誌 Web 版 (ver.5) を用いて検索した。国内の文献は、医学中央雑誌 Web 版 (ver.5) の検索用語として、「精神看護」「コミュニケーション」「学生」「教育方法」の4つのキーワードを用いて原著論文を検索した(中略) 9件の文献を分析対象とした。海外の文献は、PubMed の検索用語として、「mental health nursing」「communication」「nursing student」の3つのキーワードを用いて検索した(中略) 7件の文献を分析対象とした。	精神看護領域における看護学生のコミュニケーションスキル向上のための教育方法として、実際のコミュニケーション場面を想定したロールプレイを主に用い、ビデオ録画によるリフレクションなどを併用していた。精神障害を有する者に対する看護学生のコミュニケーションスキル向上には、よりリアルな場面を想定した視覚教材やロールプレイを用いたアクティブ・ラーニングや、学習成果を評価するための評価スケール開発などが必要であることが示された。(要約から抜粋)
高橋 ¹²⁾ 2021	過去5年間の先行研究より、看護学の学習における看護学生のコミュニケーションスキルの特徴について明らかにする。	データベースは医学中央雑誌 WEB 版 Ver.5 を使用した。本研究では、看護学の学習における看護学生のコミュニケーションスキルの特徴について把握するため、「コミュニケーションスキル」「コミュニケーション能力」をOR検索したもの、及び「講義」「演習」「実習」をOR検索したものに、「看護学生」をAND検索した(2020年4月)。絞り込み条件は、原著のみとし、会議録は除いた。そして、近年のコミュニケーションスキルの特徴を把握するため、対象文献は過去5年分とした。	対象文献9件を精読した結果、看護学生のコミュニケーションスキルの特徴として、6つの特徴があることが明らかとなった。(中略) それらは、【非言語メッセージを受け取ることに対する自己評価の低さ】、【自己主張の乏しさ】、【表現力の乏しさ】、【指導者・教員・看護師とのコミュニケーションに対する困難さ】、【高い他者受容スキル】、【経年的変化の存在】であった。(結果から抜粋) 看護学生のコミュニケーションスキル育成において、重点を置くべきは、基本的コミュニケーションスキルの育成であり、そのための教育的支援の検討が必要であるといえる。(考察から抜粋)
磯野ら ¹³⁾ 2023	本研究は、看護学生のコミュニケーションスキルの獲得という現象を明らかにするための基礎資料として、文献検討から看護学生のコミュニケーションスキルの枠組みと定義を明らかにすることを目的とした。	看護学生のコミュニケーションスキルに関連した論文の検索は、医学中央雑誌 Web で行った。文献検索は1991年から2021年を対象に、「(看護学生)and「コミュニケーションスキル or コミュニケーション技術」)」の検索式で行い、得られた原著論文は190件であった。これらの内容を確認し、除外条件を①文献検討であるもの、②コミュニケーションスキルの変化を調べていないもの、③具体的なコミュニケーションスキルが示されていないもの、④外国語のコミュニケーションスキルに関するものとし、65件の対象論文を抽出した。(中略) 本研究ではコミュニケーションスキルに先行する要因やプロセスを含んだ枠組みを明らかにすることを目的としていることから、Rodgersの概念分析の手法を参考に分析した。	65件の先行研究から「看護学生のコミュニケーションスキル」を構成する先行要件、属性、帰結を分析し、看護学生のコミュニケーションスキルの構成要素と定義を明らかにした。1.看護学生のコミュニケーションスキルの属性は、【自己知覚】、【他者理解】、【伝達】、【相互作用】の4大カテゴリーと【自己理解】【自己統制】【自己開示】【自己主張】【他者受容】【解説力】【言語表現】【身体言語表現】【他者への配慮】【相互理解】【内省と表出の促し】の11カテゴリーと42サブカテゴリーが抽出された。2.先行要件は【学生の内的状況】と【周囲の環境】の2カテゴリーと6サブカテゴリーが抽出された。3.帰結は、【対象者との関係性の広がり」と【看護学生としての成長】の2カテゴリーと4サブカテゴリーが抽出された。4.看護学生のコミュニケーションスキルは、「学生の状況と対象者を取り巻く状況に応じて、学生自身を理解・開示することで対象者を理解し、相互のかかわりの中で人としての基本的な関係性を持ち、対象者の感情・考え・行動を引き出すたらしめを行うことによって、看護学生としての成長をもたらしスキル」と定義できた。5.看護学生のコミュニケーションスキルは、先行要件・属性・帰結を循環しながら成長していくスキルであることが示された。(結語から抜粋)

1. 対象文献の概要(表1)

対象文献の発行年は、2009年から2023年であった。研究方法で使用した文献検索データベースは、医中誌 Web は5件^{5), 7), 8), 12), 13)}、CiNii は1件⁶⁾、医中誌 Web と CiNii は1件⁹⁾、医中誌 Web と CiNii、メディカルオンラインは1件¹⁰⁾、医中誌 Web と PubMed は1件¹¹⁾であった。検索期間は、過去3年9ヶ月は1件で2005年から2008年9月⁵⁾、過去5年は3件で2010年10月検索⁶⁾と2011年から2015年⁸⁾、2020年4月検索¹²⁾、発行

年の制限なしは1件で2016年まで⁹⁾、その他は2004年から2013年⁷⁾、2002年から2016年¹⁰⁾、2013年1月から2018年8月¹¹⁾、1991年から2021年¹³⁾、2015年11月31日検索で1976年から2015年⁸⁾であった。

2. 対象文献にまとめられている内容からの分類(表2)

対象文献にまとめられている内容からの分類は、【コミュニケーション教育・研究の特徴】【学生のコミュ

表2 対象文献にまとめられている内容からの分類

分類	小分類	内容
コミュニケーション教育・研究の特徴	教育・研究の分類	コミュニケーション・スキルの向上の教育に関する文献109編を大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会において明示された「援助的関係を形成する能力」の項目を基に文献の内容を確認した結果、コミュニケーションの原則と技術99編、対人関係・相互作用45編、援助的関係の過程34編、自己分析・自己理解29編、治療的コミュニケーション16編、グループダイナミクス11編、ケアリングの考え方4編、リーダーシップ2編であった。コミュニケーション・スキルの向上の教育に関する文献109編は、臨地実習55編、演習31編、尺度開発3編、文献検討6編であり、(中略)臨地実習55編のうち基礎看護学実習は23編、成人看護学実習は11編、老年看護学実習は6編、小児看護学実習は2編、精神看護学実習は10編、在宅看護論実習は1編、全領域実習は3編であった。(中略)演習31編のうち、プロセスレコード6編、ロールプレイング7編、シミュレーション学習2編、模擬患者演習6編、疑似体験3編、SST演習4編、看護過程の展開1編であった ⁸⁾ 「1.看護学生の実習前後のコミュニケーション力の変化をみる文献」「2.実習におけるコミュニケーション能力、技術に影響を及ぼす因子に注目した文献」「3.学生の特性に注目した文献」「4.対象者の特徴によるコミュニケーションの困難さを扱う文献」に分類された ¹⁰⁾
	コミュニケーションスキルの定義の検討	看護におけるコミュニケーション・スキルとは、個人的なスキルというよりも場面に応じた社会的スキル(およびストラテジー)の意味で用いられてきた ⁹⁾ 看護学生のコミュニケーションスキルは、「学生の状況と対象者を取り巻く状況に応じて、学生自身を理解・開示することで対象者を理解し、相互のかかわりの中で人としての基本的な関係性を持ち、対象者の感情・考え・行動を引き出すはたらきかけを行うことによって、看護学生としての成長をもたらすスキル」と定義できた ¹³⁾
学生のコミュニケーションの現状や課題	一般的な能力の不足	一般的なコミュニケーション能力(技術)の不足 ⁵⁾
	非言語的能力の課題	非言語的コミュニケーションへの着目がしにくい学生の傾向が浮き彫りになった ⁶⁾ 非言語メッセージを受け取ることにに対する自己評価の低さ ¹²⁾
	表出の乏しさ	自己主張の乏しさ ¹²⁾ 表現力の乏しさ ¹²⁾
	マイナスな傾向	マイナスなコミュニケーションの傾向 ⁷⁾
	高い他者受容スキル	高い他者受容スキル ¹²⁾
	経験・学修の課題	患者と実際にコミュニケーションをとるのは初めて ⁵⁾ 学習方法が身につけていない ⁵⁾ 経年的変化の存在 ¹²⁾
	教員・看護職員との困難さ	指導者・教員・看護師とのコミュニケーションに対する困難さ ¹²⁾
	対象理解の重要性	他者理解の重要性 ⁷⁾
	スキルの重要性	コミュニケーション技術の重要性 ⁷⁾ 社会的スキルの重要性 ⁷⁾
コミュニケーション教育の内容や方法	学修態度の重要性	学習意欲の向上をねらう ⁵⁾ 自己効力感を高めることの重要性 ⁷⁾
	場面の活用	自己洞察やイメージ化を図る ⁵⁾ 臨地実習におけるコミュニケーション経験の重要性 ⁷⁾ 実際のコミュニケーション場面を想定したロールプレイを主に用い、ビデオ録画によるリフレクションなどを併用していた ¹¹⁾
	教育方法の選択	教育方法の利点や欠点を理解し、適切な教育方法を選択する ⁵⁾
	教員の関わり	教員の関わりにより教育効果が変化する ⁵⁾

コミュニケーションの現状や課題】【コミュニケーション教育の内容や方法】が抽出された。

【コミュニケーション教育・研究の特徴】では、＜教育・研究の分類＞＜コミュニケーションスキルの定義の検討＞が挙げられた。＜教育・研究の分類＞は、臨地実習や演習、尺度開発、文献検討等⁸⁾や「看護学生の実習前後のコミュニケーション力の変化をみる文献」「実習におけるコミュニケーション能力、技術に影響を及ぼす因子に注目した文献」等¹⁰⁾の分類について述べられていた。＜コミュニケーションスキルの

定義の検討＞は、看護におけるコミュニケーション・スキル⁹⁾や看護学生のコミュニケーションスキル¹³⁾の定義について述べられていた。

【学生のコミュニケーションの現状や課題】では、＜一般的な能力の不足＞＜非言語的能力の課題＞＜表出の乏しさ＞＜マイナスな傾向＞＜高い他者受容スキル＞＜経験・学修の課題＞＜教員・看護職員との困難さ＞が挙げられた。＜一般的な能力の不足＞は、一般的なコミュニケーション能力(技術)の不足⁵⁾が報告され、＜非言語的能力の課題＞は、非言語的コミュニ

ケーションへの着目がしにくく⁶⁾、非言語メッセージを受け取ることに對する自己評価の低さ¹²⁾が述べられていた。＜表出の乏しさ＞は、自己主張や表現力の乏しさ⁵⁾が述べられていた。コミュニケーションについて＜マイナスな傾向＞が報告される一方⁷⁾、＜高い他者受容スキル＞が報告されていた¹²⁾。＜経験・学修の課題＞は、患者と実際にコミュニケーションをとるのは初めてで、学習方法が身についていない⁵⁾、経年的変化が存在すること¹²⁾が述べられていた。その他に、コミュニケーションの対象として＜教員・看護職員との困難さ＞が述べられていた¹²⁾。

【コミュニケーション教育の内容や方法】では、＜対象理解の重要性＞＜スキルの重要性＞＜学修態度の重要性＞＜場面の活用＞＜教育方法の選択＞＜教員の関わり＞が挙げられた。＜対象理解の重要性＞では、他者理解の重要性⁷⁾、＜スキルの重要性＞では、コミュニケーション技術や社会的スキルの重要性⁷⁾が述べられていた。＜学修態度の重要性＞は、学習意欲の向上をねらい⁵⁾、自己効力感を高めること⁷⁾が述べられていた。＜場面の活用＞は、自己洞察やイメージ化を図る⁵⁾ことや、実習におけるコミュニケーション経験の重要性⁷⁾等が述べられていた。その他に、適切なく教育方法の選択＜や＞教員の関わり＜により教育効果が変化することが述べられていた⁵⁾。

IV. 考 察

本研究では、看護学生のコミュニケーション教育の動向を明らかにする目的で総説・レビュー論文の文献検討を行った。文献検討で得られた結果から、今後の看護学生に必要なコミュニケーション教育のあり方について考察する。

1. 看護学生のコミュニケーション教育の動向

【コミュニケーション教育・研究の特徴】では、＜教育・研究の分類＞から臨地実習や演習、尺度開発、文献検討等や、看護学生のコミュニケーション力の変化や影響を及ぼす因子等の多様な分類から教育・研究が報告されていた^{8), 10)}。また、臨地実習では基礎看護学や精神看護学等の専門領域での実習、演習ではプロセスレコードやロールプレイング等の様々な方法でのコミュニケーション教育が報告されていた⁸⁾。このような教育や研究の成果を系統的に分類し、コミュニ

ケーション教育の内容や方法に活かしていくことが重要であると考え。さらに、先行研究を基にした＜コミュニケーションスキルの定義の検討＞が行われていた^{9), 13)}。一般に、コミュニケーションに関する定義や概念は、多くの学問領域で研究が行われている。看護学領域のコミュニケーションスキルの定義を踏まえつつ、他の学問領域の知見を比較・検討していくことは有用であると考え。その他に、日本の文化や教育事情を踏まえて、国内文献を中心に検討しているが、海外の研究動向を取り入れていくことは重要であると考え。

【学生のコミュニケーションの現状や課題】では、＜一般的な能力の不足＞が指摘されていた⁵⁾。近年、学生に求められる基礎的な能力として、経済産業省から社会人基礎力¹⁴⁾や文部科学省から学士力¹⁵⁾が示されている。看護基礎教育においても、社会人基礎力、学士力に関する研究が多く報告されている^{16), 17)}。2007年の看護基礎教育の充実に関する検討会報告書¹⁾、2019年の看護基礎教育検討会報告書³⁾において、看護基礎教育の基礎分野では、人間関係論、カウンセリング理論と技法等を含むものとすることが示されている。滝島¹⁸⁾はシラバスを用いて看護基礎教育における「コミュニケーション」の授業内容の現状分析を行い、コミュニケーションの授業科目は単一の科目のみではなく、複数にわたっていること等を報告している。看護基礎教育では基本的・専門的なコミュニケーションの教育内容を精選し、段階的な教育を検討していくことが必要であると考え。

また、＜非言語的能力の課題＞や＜表出の乏しさ＞が述べられていた。藤本ら¹⁹⁾、島村ら²⁰⁾は看護学生の基本的コミュニケーション・スキルの測定からスキル・タイプについて報告している。小山ら⁹⁾は看護師や看護学生のコミュニケーション・スキル教育の方向性として、自らのコミュニケーション・スキルを自覚し、個人の特性に応じたトレーニング方法を選べるようにすることの重要性を述べている。個々の学生の特性に応じた教育も求められていると考える。

さらに、＜経験・学修の課題＞として経年的変化の存在¹²⁾が述べられていた。コミュニケーション能力を身につけるために経験や学修は欠かせない。市川ら⁷⁾は臨地実習領域、臨地実習時期別の特徴を十分に把握しながら臨地実習に臨むことを述べている。上田ら²¹⁾は学年別の看護学士課程におけるコミュニケー

ション技術を報告している。上野²²⁾は看護学生の段階別コミュニケーション能力評価尺度を開発し、大竹ら²³⁾は上野の尺度を用いた縦断的調査を報告している。このような先行研究の成果を踏まえ、実習領域や実習時期等の学習段階に応じた教育の検討が重要であると考ええる。

このように基本的・専門的なコミュニケーション教育を個人の特性や学習段階を踏えて行うためには、段階的、継続的な評価が必要である。前原⁸⁾は段階的、継続的にコミュニケーション・スキルを評価し、更にはコミュニケーション・スキルを向上する為の教育的プログラムの開発などが必要であると述べている。評価方法には尺度を用いた測定以外に、チェック形式²⁴⁾ 25) やルーブリックの使用²⁶⁾ 等が報告されている。自己評価や他者評価、ロールプレイでの実演による評価等、効果な評価方法を用いて教育内容や方法を検討していくことは重要であると考ええる。

その他に、コミュニケーションの対象として＜教員・看護職員との困難さ＞が挙げられていた。看護学生の指示受けや看護師への報告に関する教育が報告されている²⁷⁾ 28)。平澤⁶⁾は困難が予想されるコミュニケーション場面での教員のロールモデルの重要性を示している。看護基礎教育に携わる看護学教員の学習支援のためのコミュニケーションスキル尺度が開発されており²⁹⁾、教員としてのコミュニケーションスキルの向上も求められていると考える。

【コミュニケーション教育の内容や方法】では、＜対象理解の重要性＞＜スキルの重要性＞＜学修態度の重要性＞＜場面の活用＞が挙げられた。具体的な場面を用いて、対象を理解し、コミュニケーションスキルを身につけていくことは、学習意欲や自己効力感を高め、コミュニケーション能力の向上につながると考える。滝島¹⁸⁾はコミュニケーション能力を育成・強化するために、概念的にわかったことを事例を用いたロールプレイで実際に行う、行ったことをプロセスレコードで振り返る、振り返りから今後の課題を明らかにすることを繰り返していくことを述べている。これまでも看護基礎教育では、模擬患者³⁰⁾やプロセスレコード³¹⁾を用いた教育が数多く報告されている。また、2019年の看護基礎教育検討会報告書³⁾では、シミュレーション等を活用した演習の強化が求められている。コミュニケーション教育においても、場面を想定したシミュレーション演習の実践が報告されてい

る³²⁾。さらに、2020年から新型コロナウイルス感染症の拡大によって、看護基礎教育では対面授業や臨地実習が中止されたことにより、遠隔授業や学内実習が行われた。遠隔授業や学内演習では、シナリオを用いたシミュレーション教育が行われた。このような経験から得られた知見を活かしていくことは有用である。その他に、＜教育方法の選択＞では教育方法の利点や欠点を踏まえて、＜教員の関わり＞を考えながら、コミュニケーション教育を検討していくことは重要であると考ええる。

最後に、コミュニケーション教育での Social Skills Training (以下、SST) の活用を提案したい。SSTは理論的根拠を社会学習理論におき、ロールプレイやモデリング等の行動療法の技法を用いており、適用される範囲が幅広く、精神障害、発達障害等を持っている人々に限らず、対人関係に困難を持つ方に対して適用可能な技法と述べられている³³⁾。具体的な場面を設定して様々な練習課題に取り組むことができる。場面を実演することでコミュニケーションの良い点、改善点についてフィードバックができ、基本的・専門的なコミュニケーションの練習課題に取り組めることから、看護教育に有用ではないかと考える。また、医療分野でSSTの運営は看護師、作業療法士、心理職等の職種が行っている。多職種で学修可能な対人援助技術としても役立つと考える。

2. 今後の課題

今回は取り上げられなかったが、2019年の看護基礎教育検討会報告書³⁾では、多様な場において、多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待されており、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められていると述べている。加治ら³⁴⁾は看護技術テキストの「コミュニケーション教育」の変遷から、患者や医師だけではなく、徐々に患者の家族、他の医療関係者、地域の人々との円滑なコミュニケーションが求められるようになってきていると述べている。多職種連携教育やノンテクニカルスキル教育も多く行われている³⁵⁾ 36)。今後、さらに看護師の活躍が期待され、より高いコミュニケーション能力が求められていると考える。

研究の限界として、本研究は総説やレビュー論文にまとめられた内容から看護学生のコミュニケーション教育の動向を明らかにすることを目的に行った。しかし、

対象文献の発行年は2009年から2023年であり、その間の経年的な変化については明確に出来ていない。また、対象文献は内容に忠実であることに努め、引用箇所を明記して抽出したが、総説・レビュー論文からの抽出で大まかな動向のまとめとなっている。

V. 結 論

本研究の目的は、総説やレビュー論文の検討から看護学生のコミュニケーション教育の動向を明らかにすることである。文献検討の結果、対象文献にまとめられている内容から、【コミュニケーション教育・研究の特徴】【学生のコミュニケーションの現状や課題】【コミュニケーション教育の内容や方法】が明らかになった。これらの結果から、基本的・専門的なコミュニケーション能力の育成や具体的な場面の活用による教育方法等の看護学生に必要なコミュニケーション教育のあり方について示唆が得られた。

本研究は JSPS 科研費23K09913の助成を受けたものです。

利 益 相 反

利益相反に相当する事項はありません。

文 献

- 1) 厚生労働省医政局看護課 (2007年4月20日)：「看護基礎教育の充実に関する検討会」報告書について。 <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/s0420-13.htm> (参照2024年8月4日)。
- 2) 文部科学省、厚生労働省 (2008年1月8日)：保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部を改正する省令。 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kango/08012905/001.pdf (参照2024年9月16日)。
- 3) 厚生労働省 (2019年10月15日)：看護基礎教育検討会報告書。 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_07297.html (参照2024年8月4日)。
- 4) 文部科学省、厚生労働省 (2020年10月30日)：保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布について (通知)。 https://www.mext.go.jp/content/20201105-mxt_igaku-000006024_1.pdf (参照2024年9月16日)。
- 5) 吉新典子：看護学生のコミュニケーションの問題に対する看護教育方法の実態 2005年から2008年の文献を対象として、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 看護教育研究集録, 34, 93-100, 2009。
- 6) 平澤園子：看護基礎教育の看護場面における学生のコミュニケーションスキルに関する研究, 岐阜保健短期大学紀要, 1, 49-59, 2012。
- 7) 市川和男, 牧野由加里, 竹村真由美, 他：文献からみた臨地実習における看護学生のコミュニケーションの現状と課題, 看護教育研究学会誌, 6 (2), 19-24, 2014。
- 8) 前原宏美：看護学生のコミュニケーション・スキルに関する研究概観, 日本看護学教育学会誌, 26 (2), 95-100, 2016。
- 9) 小山記代子, 幸史子, 河野朋美, 他：日本の原著論文から見た看護コミュニケーション・スキルについての考察と教育の方向性, 帝京大学福岡医療技術学部紀要, 12, 9-16, 2017。
- 10) 鷹野朋実：看護学実習における「学生のコミュニケーション」に焦点をあてた文献を対象とした文献検討を行って, 日本精神科看護学術集会誌, 60 (2), 119-123, 2018。
- 11) 中嶋貴子, 山下亜矢子：精神看護領域における看護学生のコミュニケーションスキル向上を目的とした教育方法に関する文献レビュー, インターナショナル Nursing Care Research, 19 (3), 81-90, 2020。
- 12) 高橋梓：過去5年間の看護学の学習における看護学生のコミュニケーションスキルの特徴に関する文献検討, 武蔵野大学看護学研究所紀要, 15, 11-18, 2021。
- 13) 磯野さよ子, 前田ひとみ：「看護学生のコミュニケーションスキル」の概念的枠組み, 熊本大学医学部保健学科紀要, 19, 1-8, 2023。
- 14) 経済産業省, 中小企業庁 (2018年3月)：「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」(人材力研究会) 報告書。 <https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/jinzaikyoka/2018/180314jinzaikyokakondankai.pdf> (参照2024年8月11日)。
- 15) 文部科学省 (2008年12月24日)：学士課程教育の構築に向けて (答申)。 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo/0/toushin/1217067.htm (参照2024年8月11日)。
- 16) 高木みどり：看護基礎教育における社会人基礎力育成に関する研究の動向, 大阪総合保育大学紀要, 16, 153-161, 2021。
- 17) 新井龍, 新井直子：我が国の看護基礎教育分野における学士力に関する研究の動向, 湘南鎌倉医療ジャーナル, 2 (1), 50-57, 2023。
- 18) 滝島紀子：看護基礎教育における「コミュニケーション」の授業内容の現状分析, 看護人材育成, 18 (2), 99-111, 2021。
- 19) 藤本学, 島村美香, 小山記代子, 他：看護学科初年次生の基本的コミュニケーション・スキルの類型論的特徴 ENDCOREs を用いたスキル・タイプの判定法を通して, 日本看護学教育学会誌, 28 (3), 13-25, 2019。
- 20) 島村美香, 藤本学, 幸史子, 他：統合実習が看護学生の基本的コミュニケーション・スキルに及ぼす影響

- ENDCOREsを用いたスキル・タイプの検討, 九州看護福祉大学紀要, 20 (1), 53-63, 2020.
- 21) 上田ゆみ子, 渡邊順子: 看護学士課程におけるコミュニケーション技術に関する研究, 日本看護学教育学会誌, 22 (2), 1-12, 2012.
- 22) 上野栄一: 看護学生の段階別コミュニケーション能力評価尺度の開発, ヘルスカウンセリング学会年報, 20, 59-69, 2014.
- 23) 大竹由美子, 北浦益代, 小川隆美, 他: 看護学生のコミュニケーション能力向上に向けた取り組みとその成果 都立看護専門学校7校における「看護学生の段階別コミュニケーション能力評価尺度」を用いた縦断調査結果, 看護教育, 63 (4), 466-474, 2022.
- 24) 山脇京子, 戸田由美子, 小松輝子, 他: 高知大学医学部看護学科における「看護職として必要なコミュニケーション力チェックリスト」の作成報告, 高知大学看護学会誌, 5 (1), 37-43, 2011.
- 25) 三味祥子, 実藤基子, 吉田和美: 1年次看護学生の接遇・マナー教育に関する研究 (第1部) 学生自ら作成した接遇・マナーチェックシートを活用しての学生の学び, 日本赤十字広島看護大学紀要, 12, 37-44, 2012.
- 26) 小林菜穂子, 西山ゆかり, 高島留美: 基礎看護学実習Iにおけるコミュニケーション能力育成に向けたルーブリックの使用による学習活動と学びの内容, 聖泉看護学研究, 11, 11-22, 2022.
- 27) 山本恵美子, 田中共子, 兵藤好美, 他: 看護学生の正確な指示受けのためのソーシャルスキルトレーニング 臨地実習で直面する困難状況を課題場面とした医療安全教育の試み, 応用心理学研究, 44 (1), 70-80, 2018.
- 28) 鈴木彩加, 佐居由美, 加藤木真史, 他: 臨地実習に向けたシミュレーション教育の試み 看護師への報告, 聖路加国際大学紀要, 6, 137-142, 2020.
- 29) 青木恵美子, 荒木田美香子: 看護基礎教育に携わる看護学教員の学習支援のためのコミュニケーションスキル尺度の開発, 日本看護研究学会雑誌, 42 (2), 161-173, 2019.
- 30) 鈴村初子, 春田佳代, 相撲佐希子, 他: 看護基礎教育の学内演習で模擬患者を利用している文献の検討, 修文大学紀要, 11, 41-50, 2019.
- 31) 松丸直美, 平山香代子, 松浦真理子: 臨地実習指導におけるプロセスレコードの活用に関する文献研究, 第51回日本看護学会論文集 看護管理・看護教育, 271-274, 2021.
- 32) 藤野ユリ子, 吉川由香里: 患者とのコミュニケーション場面を想定したシミュレーション演習の実践, 福岡女学院看護大学紀要, 11, 27-34, 2021.
- 33) 角谷慶子: SSTの技法と理論 さらに展開を求めて, 西園昌久 (編), 47-57, 東京都: 金剛出版, 2009.
- 34) 加治美幸, 山下美智代, 岡田奈津子, 他: 看護基礎教育における「コミュニケーション教育」の変遷 看護技術テキストの記載内容の比較から, 了徳寺大学研究紀要, 9, 103-116, 2015.
- 35) 菅野夏子, 藤田敦子, 平松幸子: 看護系大学で行われている多職種連携教育に関する文献検討, 姫路大学大学院看護学研究科論究, 6, 81-91, 2023.
- 36) 福田大祐, 飯塚麻紀: 医療の臨床実践におけるノンテクニカルスキル教育に関する文献検討, 常磐看護学研究雑誌, 5, 55-65, 2023.